

参加者の活動紹介（福知山市 市長公室 大学政策課 課長補佐兼連携推進係 足立 英昭様）

福知山市市長公室大学政策課は、平成28年4月に開学した福知山公立大学（以下、大学）を中心にした“北近畿地域の「知の拠点」づくり”を進めるため、大学の知見を活かした人材育成、産業振興、まちづくりに貢献する等の地域連携・地域協働活動への支援、学生の修学環境整備への支援等を行っています。



その一環として当課では、令和3年度より福知山市に在住・在勤の方を対象に、ITの知識や技術を身につけてデジタル化をけん引できる人材を育成するための情報教育プログラム「シニアワークカレッジ」を大学と連携して行っています。

令和6年度は「データサイエンスと数理コース」「AI人材育成コース」「広報用動画制作コース」「Pythonプログラミング入門とドローンの自動操縦コース」の4コース（いずれも年10回程度の講義）を開講しています。

また将来的に世界で活躍できる情報人材の育成をめざし、福知山市、丹波市、朝来市の小中学生を対象とした「ジュニアIT人材育成事業」も夏休み期間に実施し、今年度は小学生5・6年生を対象とした「プログラミング道入門」「ゲームでプログラミング」、中学生を対象とした「ロボットカー制作講座」「サウンドクリエイティブ講座」を開講します。

以上の様に今後においても、大学を核とした「知の拠点」づくり、学生が安心して学業に専念できる環境づくり、北近畿エリアでの産学公連携推進を大学と協力、連携して取り組んでいきます。



活動報告

～マリン IT ワークショップ こうべに参加して～（舞鶴工業高等専門学校 准教授 小林 洋平）

公立はこだて未来大学の和田先生により主催されたスマート水産業シンポジウムは、水産業界のデジタルトランスフォーメーション(DX)とイノベーションをテーマにした知識共有とネットワーキングの場としてスタートした会合である。和田先生による開会の挨拶に始まり、水産業界の専門家が一堂に会し、最新の研究成果やプロジェクトの進展、課題と解決策について深く掘り下げた。

セッション1では、水産庁の金子様をはじめとする講演者がスマート水産業の施策、地域水産情報サイトの運用課題、水産業のDX推進、漁業協同組合の取り組み、水族館のDXとサービス化、海上公共交通のデータ形式化など、幅広いトピックについて発表した。セッション2では、画像を用いた魚病診断、生物学と水産の融合、デジタル画像と深層学習を活用したナマコ体サイズ測定、ホタテ養殖施設の深度可視化、

マグロ延縄漁のデジタル漁獲量報告など、科学的手法とデジタル技術の応用に焦点を当てた。セッション3では、小型コンピュータを活用した漁業用IoT機器の開発、音響機器を用いた漁場環境の可視化、モズク養殖の水温マップ活用、リアルタイム支援情報の提供、生物付着防止及び除菌技術、養殖ビジネスの未来展望など、技術革新が水産業のさまざまな側面にどのように貢献しているかが議論された。最後に、ひょうご・こうべセッションでは、地域の海洋産業振興、漁場環境観測システム、地元漁業の取り組み、農業と海のつながりについての議論が行われ、パネルディスカッションを通じて持続可能な豊かな海づくりに向けた意見交換が活発に行われた。

このシンポジウムは、水産業の未来を形作るための革新的なアイデアと実践的な解決策の共有に貢献し、参加者に深い洞察と刺激を与えるものである。このシンポジウムは、その高度な内容とは裏腹に参加者はほぼ自宅でくつろぐ時のようなリラックスした服装であり、楽しそうな表情が絶えず、用意されたフリードリンクを飲みながら発表に聞き入っている。要綱のような小難しいものはなく、興味を持ったら発表者に駆け寄って聞くだけである。会場は、去年は船、本年は有名な結婚式場と嗜好を凝らしている。このようなシンポジウムは他に例を知らない。とても楽しい。堅苦しさが全くない。シンポジウムの理想型である。舞鶴市または京都府の水産の担当者は、このシンポジウムに参加すると良いと思う。一度参加すれば、来年も来ようときっと思うであろう。そうすれば、10年後の舞鶴市の水産業の政策は日本でもトップレベルに進んだものとなるはずである。次回の2025年は、みやぎ大会である。



書評 第5回 (独立行政法人 国立高等専門学校機構 内海 康雄 特命教授)

書名 中小企業・スタートアップを読み解く 伝統と革新、地域と世界
 著者名 加藤 厚海、福嶋 路、宇田 忠司 共著
 出版社名 有斐閣
 出版年月 2023年9月



身近な存在である中小企業のこれからの考える上で貴重な一書です。
 丁寧かつ実践的な内容に溢れており、また実例が豊富に示されています。



書名 新・地域マーケティングの核心
 —地域ブランドの構築と支持される地域づくり—
 著者名 佐々木 茂、石川 和男、石原 慎士
 出版社名 同友館
 出版年月 2022年1月

最初の章「地域と都市：地域のとらえ方」では扱う対象を明確に把握した上で話が進んでいきます。自身のプロジェクトで何をしようかと考える際に、かなり具体的にやるのがイメージできるかもしれません。

